

海洋安全保障情報月報

2010年8月号



目次

2010年8月の主要事象

1. 情報要約

- 1.1 海洋治安
- 1.2 軍事動向
- 1.3 海洋境界
- 1.4 外交・国際関係
- 1.5 海運・造船・港湾
- 1.6 海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他

2. 情報分析

解題 『海をかき混ぜる五つの龍：中国の海上法執行能力の改善への挑戦と機会』

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

リンク先 URL はいずれも、2010 年 8 月末現在、アクセス可能なものである。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、酒井英次、友森武久、向和歌奈、毛利亜樹
高田祐子

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。

2010年8月の主要事象

海洋治安：8月には、ハイジャック事案が2件あった。ソマリアの海賊は2日朝、パナマ籍船の貨物船、MV *Suez* (17,300DWT) をハイジャックした。該船は、セメントを積んでアデン湾の安全回廊 (IRTC) を航行中であつた。また、ソマリアの海賊は5日、アデン湾の安全回廊 (IRTC) を航行中のシリアの貨物船 (セントビンセント・グレナディーン籍船)、MV *Syria Star* をハイジャックした。しかし、ソマリアの海賊は6日、MV *Syria Star* をプントランド自治区の沿岸で放棄した。ドイツ海軍のヘリが救援に当たった。

ノルウェーの船社所有のケミカルタンカーが3日未明、アデン湾で海賊に襲撃されたが、BMP に従った回避行動とスペイン海軍戦闘艦の介入によって、ハイジャックを免れた。付近の海域にいたスペイン海軍戦闘艦、SPS *Victoria* の臨検チームが海賊のボートを臨検し、武器を発見した。海賊容疑者7人は、その後釈放された。ノルウェーの船社は、スペイン海軍が海賊容疑者7人を釈放したことに対して、非常に失望した、と非難した。また、NATO 艦隊に所属する米海軍誘導ミサイルフリゲートは9日、アデン湾の安全回廊 (IRTC) で、リベリア籍船のタンカーから海賊に襲撃されているとの通報を受け、ヘリを発進させて、該船に対する襲撃を阻止した。同艦の臨検チームが海賊の小型ボートを臨検し、幾つかの装備類を押収した。しかし、海賊容疑者は、その後釈放された。海賊容疑者を釈放したことに対して、国際独立タンカー船主協会 (INTERTANKO) は9日、憤りを表明した。INTERTANKO は会員向けの声明で、「各国海軍の活動を全面的に評価しているが、今後更に海賊容疑者を起訴する機会が失われるとすれば、我々は大いなる失望を感じる」と述べた。

タイ政府は16日の閣議で、海賊対処のためにアデン湾に海軍戦闘艦を派遣する提案を承認した。政府報道官によれば、タイは371人の要員と海軍艦艇を9月初めに98日間の予定で派遣する。

ReCAAP は、この1カ月間、プラウ・ムンギン島とホースバーグ灯台周辺での襲撃事案が増大していることに警告している。ReCAAP によれば、強盗事案の発生海域がタンジュン・アヤムの南方海域からプラウ・ムンギン島の東に移ってきているようである。ReCAAP ISC のテオ次長は11日、船舶に対する脅威の度合いがソマリアのそれとは違って、アジアでは強盗などの事案が一般的であり、それだけに、一部の船主や乗組員には状況を楽観視しがちになっている、と警告している。テオ次長はまた、襲撃事案を当局に通報するにも時間がかかりすぎるとして、事案を当局に早急に通報することは、自分達の海域における海賊襲撃事案を撲滅する助けになるとして、船員の自覚を求めている。

軍事動向：1日付の新華網は、中国海軍の機関紙『人民海軍』が掲載した南シナ海演習の記事を転載した。それによると、『人民海軍』は今次の演習を、7月26日に南海艦隊主導で行われた海軍の多兵種合同実弾演習は、中国海軍史上、訓練要素が最も全般的で、発射したミサイルが最も多く、情報化レベルも最高のもので、電磁環境も最も複雑な対戦型・実戦的な訓練であるなどと、評価している。

ロシア海軍参謀総長は2日、ロシア海軍はシリアのタルトゥス港にある海軍の補給・補修施設を大型戦闘艦が寄港できるように改修する、と語った。それによれば、改修の第1段階は2012年に完了し、誘導ミサイル巡洋艦や空母も寄港可能な海軍基地となる。同港は、地中海における恒久的な海軍力のプレゼンスを確立するための拠点となる。

中国海軍・海賊対処第5次派遣部隊の「広州」「巢湖」は、帰国の途次、エジプト、イタリア、ギリシャ、ミャンマーを訪問した。

韓国軍は5日、最大規模の対潜演習を黄海で開始した。演習には、人員約4,500人、29隻の戦闘艦艇、50機の航空機が参加して、5日間に亘って行われる。

米海軍第7艦隊は8日、中部ベトナムのダナン沖で、米越国交正常化15周年を記念する、ベトナム海軍との合同演習を開始した。米側からは、空母、USS *George Washington* (CVN 73)、誘導ミサイル駆逐艦、USS *John S. McCain* (DDG 56) などからなる、Task Force 73が参加した。演習終了後、USS *John S. McCain* (DDG 56) は10日、ダナン港に寄港した。

オーストラリア海軍は16日～9月3日までの間、ダーウィン沖で多国間海上合同演習、Exercise KAKADU 2010を実施する。この演習には、タイ、シンガポール、ニュージーランド及び日本の4カ国から3,000人以上の人員、艦艇、航空機が参加する。

豪紙、*The Australian* の外交論説委員で、米国の The Woodrow Wilson International Center for Scholars の客員研究員、G・シェリダン (Greg Sheridan) は19日付の同紙で、オーストラリアの新政権が直面するアジア太平洋地域における複雑な安全保障環境は益々激化する米中間の抗争であろうと見、そこで決断を迫られる可能性が高いのは北部のダーウィンに米軍の大規模な基地施設を受け入れるかどうかである、とする論説を寄稿している。

米国防省は16日、中国の軍事動向に関する年次報告書、Annual Report to Congress: Military and Security Developments Involving the People's Republic of China 2010を公表した。今回の報告書は例年の3月頃とは大幅に遅れての公表であり、また、タイトルも例年の、Annual Report to Congress: Military Power of the People's Republic of Chinaとは異なっている。中国国防部スポークスマンは18日、米国防省が発表した報告書「中華人民共和国の軍事と安全保障の発展2010」に対し、中国は終始平和発展の道を歩み、防御的な国防政策をとり、軍備競争をせず、いかなる国家の軍事的脅威にならない、と強調した。

日本政府は、ジブチに軍事基地を建設する計画である。在エチオピアの駒野欽一大使によれば、この計画は、ソマリアの海賊対処活動を強化すると共に、持続的な活動を継続することが狙いである。これに先立つ数週間前に、ジブチに軍事基地を建設するために日本とジブチ間で土地貸与協定が締結され、日本は、米国とフランスに次いで、ジブチに軍事基地を持つ3番目の国となった。

海洋境界：シンガポールの the Institute of Southeast Asian Studies 客員研究員、マイケル・リチャードソンは、2日付のシンガポール紙、*the Straits Times* に“Chinese patience limited over maritime underbelly”と題する論説を寄稿し、中国は急速に発展する経済を支え、より遠海にバッファを設けることで安全を高めることを望んでいるが、中国のEEZは大きな広がりを持っていないとして、中国の南シナ海に対する領有権主張の背景に言及し、武力行使の可能性さえ示唆している。

シンガポール・インドネシア両国は29日、シンガポール海峡の西部海域における領海確定に関する条約を批准し、シンガポール外務省で批准書を交換し、署名した。この条約で合意された境界は、1973年5月25日に両国が署名した条約で合意された両国の領海境界線を延長するものである。インドネシアとシンガポールは、シンガポール海峡東部海域については、境界画定問題を解決しなければならない。他方、マレーシアもインドネシアとの間で、シンガポール海峡東部海域についての境界画定問題が未可決となっている。これに先立って、インドネシアのユドヨノ大統領は20日、外相及び漁業・海洋問題相と会談し、両相に対して、マレーシアとの海洋境界に関する協議を開始するよう指示した。漁業・海洋問題相は、9月初めにも協議が始まることを期待している、と語った。

中国は 26 日、領有権を主張する南シナ海の深海底に、小型有人潜水艇を使って国旗を打ち込んだことを明らかにした。

外交・国際関係：ベトナム外務省報道官は 5 日、中国が 5 月から西沙諸島海域で地震波による海底探査を実施していることに対して、ベトナムの主権を侵害するものと抗議した。

崔天凱・中国外交部副部長は 6 日、バヌアツの首都ポートビラで開かれた第 22 回「太平洋諸島フォーラム」(PIF) 域外国対話において、中国政府は太平洋諸島国家との友好協力関係を高度に重視していると発言した。

海運・造船・港湾：インド海運省によれば、チェンナイ、ツチコリン、カンドラ及びムンバイなどのインドの主要港は 2012 年までに、放射線探知装置を設置する。海運省は 2012 年以降、民間港や小規模港にも放射線探知装置と X 線スキャナーを設置していく計画である。

スエズ運河庁の 7 月の収入は対前年比 6.1%増で、4 億 620 万米ドル、2009 年 7 月は 3 億 8,290 万米ドルであった。8 月以降も、最近の水路の浚渫と世界貿易の回復、そして世界市場での石油価格の上昇を背景に、堅実な収入増が見込まれるという。

海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他：最近の調査で、インドネシア北西部のアンダマン海域の海水温の上昇によって、この海域の珊瑚礁が壊滅的被害を受けていることが判明した。米国の NGO、the Wildlife Conservation Society の海洋生物学者による 2010 年 5 月の調査で、珊瑚礁の 60% 以上が「白化」していることを発見した。オーストラリアの James Cook University とインドネシアの Syiah Kuala University による 8 月までの調査では、80% 以上が「白化」していた。「白化」の原因は、海水温の上昇と直射日光に曝されるためとされる。

シンガポールと韓国は 23 日、航行の安全と海洋環境の保護を促進するための両国間の協力強化に関する了解覚書 (MOU) に調印した。

情報分析：中国の海上法執行体制は複雑であり、海洋先進諸国に比して未発達である。海上警察機能と海軍機能の区分も曖昧である。今月の情報分析では、そのような中国の海上法執行体制の現状と展望について、アメリカ海軍大学の中国海洋研究所 (China Maritime Studies Institute, U.S. Naval War College) が 2010 年 4 月に公表した、『海をかき混ぜる五つの龍：中国の海上法執行能力の改善への挑戦と機会』(*Five Dragons Stirring Up the Sea: Challenge and Opportunity in China's Improving Maritime Enforcement Capabilities*) の分析内容を紹介した。

1. 情報要約

1.1 海洋治安

8月2日「ソマリアの海賊、アデン湾でパナマ籍船をハイジャック」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, August 2, 2010)

ソマリアの海賊は2日朝、パナマ籍船の貨物船、MV *Suez* (17,300DWT) をハイジャックした。該船は、セメントを積んでアデン湾の安全回廊 (IRTC) を航行中であった。

記事要旨：パナマ籍船の貨物船、MV *Suez* (17,300DWT) は2日朝、海賊に小火器で襲撃されており、その後、海賊に乗り込まれたと報告した後、消息を絶った。該船は、セメントを積んでアデン湾の安全回廊 (IRTC) を航行中であった。該船の乗組員はエジプト人、パキスタン人、スリランカ人及びインド人の23人で、負傷者の報告はない。報告を受けた直後、近くにいた戦闘艦からヘリが該船に向かったが、海賊はすでに該船を乗っ取った後であった。

記事参照：MV SUEZ hijacked in the Gulf of Aden

<http://www.eunavfor.eu/2010/08/mv-suez-hijacked-in-the-gulf-of-aden/>



MV *Suez* (17,300DWT)

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, August 2, 2010

8月3日「スペイン海軍戦闘艦、海賊の襲撃阻止」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, August 3, 2010)

ノルウェーの船社所有のケミカルタンカー (シンガポール籍船)、MT *Bow Saga* (40,100DWT) が3日未明、アデン湾で海賊に襲撃されたが、海賊対処要領、BMP に従った回避行動とスペイン海軍戦闘艦の介入によって、ハイジャックを免れた。

記事要旨：ノルウェーの船社所有のケミカルタンカー (シンガポール籍船)、MT *Bow Saga* (40,100DWT) が3日未明、アデン湾でソマリアの海賊7人が乗った小型ボートからブリッジを銃撃され、窓が損傷した。該船は、海賊対処要領、BMP に従って回避行動をとり、海賊の乗り込みを阻止するために高圧放水銃を使用した。付近の海域にいたスペイン海軍戦闘艦、SPS *Victoria* が救難信号を受信し、同艦から発進したヘリが10分以内に到着し、逃亡を図る小型ボートを警告射撃で停船させ、同艦の臨検チームがボートを臨検し、武器を発見した。写真はその時の様子である。

記事参照 : EU NAVFOR warship SPS VICTORIA apprehends pirate attack skiff.

<http://www.eunavfor.eu/2010/08/eu-navfor-warship-sps-victoria-apprehends-pirate-attack-skiff/>



Left: MT *Bow Saga*

Source: <http://www.shipspotting.com/modules/myalbum/photo-443150-Bow+Saga>



Right: The skiff was searched by a boarding team from SPS *Victoria*

Source: EU NAVFOR Public Affairs Office , Press Release, August 3, 2010

【関連記事 1】

「起訴までの時間的余裕が 24 時間—釈放の一因」（Trade Winds, August 5, 2010）

海賊容疑者 7 人が釈放されたのは、厳しいスペイン国内法、ケニアの祝日、更には法的枠組みの欠如が重なり合った結果である。

記事要旨：海賊容疑者 7 人が釈放されたのは、厳しいスペイン国内法、ケニアの祝日、更には法的枠組みの欠如が重なり合った結果である。海賊容疑者を拘束したのがスペイン海軍戦闘艦であったため、当局は逮捕から起訴に持ち込むまで 24 時間しか余裕がなかった。海賊容疑者を適切に取り扱う法的枠組が旗国にも、またスペインとノルウェーにもなかったために、唯一の選択肢は海賊容疑者をケニアに引き渡すことであった。しかしながら、それもケニアが祝日だったために不可能であった。記事参照：‘Only 24 hours to prosecute’；購読者のみアクセス可能

【関連記事 2】

「ノルウェーの船社、海賊容疑者の釈放を非難」（Trade Winds, August 5, 2010）

ノルウェーの船社、Odfjell は、スペイン海軍が海賊容疑者 7 人を釈放したことに對して、非常に失望した、と非難した。

記事要旨：ノルウェーの船社、Odfjell は、スペイン海軍が海賊容疑者 7 人を釈放したことに對して、非常に失望した、と非難した。MT *Bow Saga* を襲撃したソマリア人海賊容疑者 7 人は、国際独立タンカー船主協会（INTERTANKO）やその他の業界団体が起訴を求めたにも関わらず、4 日にブントランドに送還された。Odfjell は、「このような措置は、我々の船員に間違ったメッセージを送るもので、問題が適切に對処されてこなかったことを示している」と述べた。この事案によって、同社は、自社の運航船にアデン湾を回避し、喜望峰回りの迂回ルートを航行させる意向を再び高めることになった。

記事参照：Odfjell seeks Aden boycott；購読者のみアクセス可能

18 日付の Fairplay Daily News によれば、Odfjell は、ノルウェーとシンガポールの警察当局に對

して、海賊多発海域を自社運航船が航行する間、乗組員の武装と武装警備員の乗船を許可するよう申請した。(購読者のみアクセス可能)

【関連記事 3】

「米海軍戦闘艦、アデン湾で海賊の襲撃阻止」(NATO Allied Maritime Command Press Release, August 9, 2010)

NATO 艦隊に所属する米海軍誘導ミサイルフリゲートは 9 日、アデン湾の安全回廊 (IRTC) で、リベリア籍船のタンカーから海賊に襲撃されているとの通報を受け、ヘリを発進させて、該船に対する襲撃を阻止した。

記事要旨：NATO 艦隊に所属する米海軍誘導ミサイルフリゲート、USS *Kauffman* は 9 日、アデン湾の安全回廊 (IRTC) で、リベリア籍船のタンカー、MT *Ice Explorer* (146,300DWT) から海賊に襲撃されているとの通報を受け、ヘリを発進させて、該船に対する襲撃を阻止した。ヘリからは、海賊が武器やその他の装備を海中に投棄するのが視認された。同艦の臨検チームが海賊の小型ボートを臨検し、幾つかの装備類を押収した。

記事参照：SS KAUFFMAN prevents pirate attack in Gulf of Aden

<http://www.manw.nato.int/pdf/Press%20Releases%202010/Jun%20-%20Dec%202010/SNMG1/SNMG1%202010%2018.pdf>

【関連記事 4】

「国際独立タンカー船主協会、米海軍による海賊釈放を非難」(Lloyd's List, August 10, 2010)

米海軍誘導ミサイルフリゲートの臨検チームが海賊容疑者を釈放したことに対して、国際独立タンカー船主協会は 9 日、憤りを表明した。

記事要旨：米海軍誘導ミサイルフリゲート、USS *Kauffman* が MT *Ice Explorer* に対する海賊の襲撃を阻止した際、同艦の臨検チームが海賊容疑者を釈放したことに対して、国際独立タンカー船主協会 (INTERTANKO) のスィフト (Peter Swift) 会長は 9 日、憤りを表明した。この種の事案は 3 日の MT *Bow Saga* に次いで、1 週間で 2 度目となった。船主側は、自国の裁判権で海賊容疑者を起訴するのが難しいため、各国海軍が海賊容疑者を拘束することを躊躇している、と見ている。INTERTANKO は会員向けの声明で、「各国海軍の活動を全面的に評価しているが、今後更に海賊容疑者を起訴する機会が失われるとすれば、我々は大いなる失望を感じる」と述べている。

記事参照：Swift angry as US Navy releases pirates caught in tanker assault ; 購読者のみアクセス可能

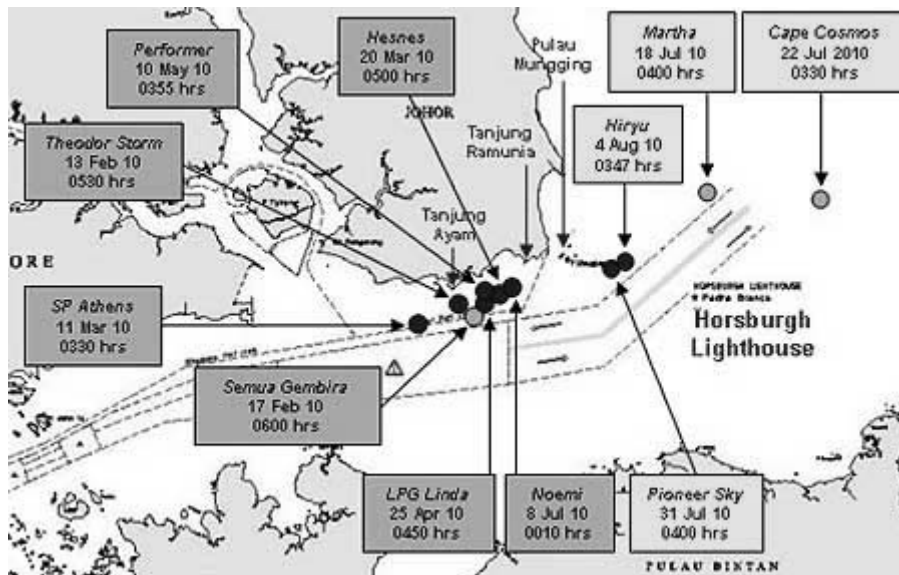
8 月 4 日「海賊、VLCC に乗り込み—マレーシア南端沖」(Trade Winds, August 5, 2010)

ReCAAP は、この 1 カ月間、プラウ・ムンギン島とホースバーグ灯台周辺での襲撃事案が増大していることに警告している。ReCAAP によれば、強盗事案の発生海域がタンジュン・アヤムの南方海域からプラウ・ムンギン島の東に移ってきているようである。

記事要旨：3 人の海賊が 4 日朝、マレーシア南端沖のプラウ・ムンギン島東 2.5 カイリ沖で、解体のために売却された VLCC、MT *Hiryu* (249,037DWT) に乗り込んできた。該船の乗組員が警報を鳴らしたために、海賊はボートで逃亡した。ReCAAP は、この 1 カ月間、プラウ・ムンギン島とホースバーグ灯台周辺での襲撃事案が増大していることに警告している。ReCAAP によれば、強盗事案

の発生海域がタンジュン・アヤムの南方海域からプラウ・ムンギン島の東に移ってきているようである。

記事参照：VLCC boarded off Malaysia；購読者のみアクセス可能



Reported piracy incidents off Malaysia since February

Source: ReCAAP (Trade Winds, August 5, 2010)

8月5日「ソマリアの海賊、アデン湾でシリア船ハイジャック」(Trade Winds, August 5, 2010)

ソマリアの海賊は5日、アデン湾の安全回廊 (IRTC) を航行中のシリアの貨物船 (セントビンセント・グレナディーン籍船)、MV *Syria Star* をハイジャックした。

記事要旨：ソマリアの海賊は5日、アデン湾の安全回廊 (IRTC) を航行中のシリアの貨物船 (セントビンセント・グレナディーン籍船)、MV *Syria Star* (18,800DWT) をハイジャックした。該船の乗組員はシリア人22人とエジプト人2人で、EU艦隊 (EU NAVFOR) によれば、該船から「海賊が乗り込み、乗組員に発砲した」との通報があった。該船は、砂糖を積んで、アデン湾を西航していた。

記事参照：Syrian ship in IRTC hijack；購読者のみアクセス可能

【関連記事】

「海賊、シリア船を放棄」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, August 7, 2010)

ソマリアの海賊は6日、MV *Syria Star* をプントランド自治区の沿岸で放棄した。ドイツ海軍のヘリが救援に当たった。

記事要旨：ソマリアの海賊は6日、MV *Syria Star* をプントランド自治区の沿岸で放棄した。海賊は、襲撃に使った小型ボートを残して、該船の救命ボートで逃亡した。EU NAVFORは7日、該船の解放を確認した。該船の周辺海域にいるドイツ海軍戦闘艦、FGS *Schleswig Holstein* が医療チームを乗せたヘリを発進させた。該船の乗組員3人が負傷しており、医療チームから手当を受けた。写真はMV *Syria Star* と救援に向かうドイツ海軍のヘリである。

記事参照：EU NAVFOR warship FGS SCHLESWIG-HOLSTEIN gives medical assistance to the crew of the MV SYRIA STAR

<http://www.eunavfor.eu/2010/08/eu-navfor-warship-fgs-schleswig-holstein-gives-medical-assistance-to-the-crew-of-the-mv-syrian-star/>



Source: <http://www.eunavfor.eu/2010/08/eu-navfor-pictures-of-mv-syria-star-assistance-operation-2/>

8月11日「ReCAAP ISC 次長、船員の意識改革を呼びかけ」(Fairplay Daily News, August 11, 2010)

ReCAAP ISC のテオ次長は 11 日、船舶に対する脅威の度合いがソマリアのそれとは違って、アジアでは強盗などの事案が一般的であり、それだけに、一部の船主や乗組員には状況を楽観視しがちになっている、と警告している。テオ次長はまた、襲撃事案を当局に通報するにも時間がかかりすぎるとして、事案を当局に早急に通報することは、自分達の海域における海賊襲撃事案を撲滅する助けになるとして、船員の自覚を求めている。

記事要旨：ReCAAP ISC の 2010 年上半期の海賊及び武装強盗事案は、2006 年以来、最も多い件数を示している。(2010 年上半期の ReCAAP 報告書については、OPRF 海洋安全保障情報月報 2010 年 7 月号 2.2 参照。) ReCAAP ISC のテオ (Nicholas Teo) 次長は 11 日、アジアには海賊がハイジャックした船舶を拘留しておく聖域がないために、強盗などの事案が一般的であり、船舶に対する脅威の度合いがソマリアのそれとは違う、と指摘している。しかし、テオ次長は、それだけに、一部の船主や乗組員には状況を楽観視しがちになっている、と警告している。テオ次長は、「一般的に、このような事案は『自分には起こらないだろう』と考え、船員は未だに効果的な防止手段をとっていない。一部の船舶は、舷側に梯子をぶら下げてさえいる」と語っている。また、襲撃事案を当局に通報するにも時間がかかりすぎるとして、テオ次長は、「通報が遅れれば遅れるほど、対応するのがより困難になる」ことから、「船員は他の船舶の船員に対する自らの責任を理解する必要がある。事案を当局に早急に通報することは、自分達の問題を解決しないかもしれないが、自分達の海域における海賊襲撃事案を撲滅する助けになる」と、船員の自覚を求めている。

記事参照：ReCAAP calls for crew action ; 購読者のみアクセス可能

8月13日「『中国海監 83』、北太平洋海上保安フォーラム多目的訓練に参加」(解放軍報電子版, August 14, 2010, 海上保安庁, August 13, 2010)

中国国家海洋局の海監総隊所属の「中国海監 83」が、ロシアで開かれる北太平洋海上保安フォーラム多目的訓練に参加するために、13日に広州から出向した。

記事要旨：中国国家海洋局の海監総隊所属の「中国海監 83」が、ロシアで開かれる北太平洋海上

保安フォーラム多目的訓練に参加するために、13日に広州から出向した。

海上保安庁によると、同フォーラムは、北太平洋地域の海上の秩序・治安の確保を目的として、日本、カナダ、中国、韓国、ロシア及び米国の6カ国の海上保安機関の代表が一堂に会して、各国間の具体的な連携・協力について協議するもので、毎年1回、長官級会合及び実務者会合を各国持ち回りで開催しているという。日本からは巡視船「えちご」（新潟海上保安部）が参加した。今回の訓練は、北太平洋海上保安フォーラム参加各国の連携・協力をより実践的なものにするための取り組みとして行われるものであり、ロシアが主催し、各国から派遣された巡視船・航空機が合同で追跡訓練、人命救助訓練、薬物船内捜索訓練等を行うという。

記事参照：原文は中国語；

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-08/14/content_35957.htm

海上保安庁 HP；

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kouhou/h22/k20100813/k100813.pdf>

8月16日「海自、オランダ海軍と協同で海賊の襲撃阻止」（Fairplay Daily News, August 17, and Japan Ministry of Defense HP, August 16, 2010）

ギリシャ籍船のばら積船、MV *Anangel Innovation* (171,681DWT) は16日朝、アデン湾の安全回廊 (IRTC) を航行中に小型ボートに接近されていると通報した。海上自衛隊護衛艦、JDS *Murasame* から発進したヘリが現場海域に到着し、不審なボートを視認した。海自ヘリは監視を継続すると共に、関係各機関に通報した。NATO 艦隊所属のオランダ海軍フリゲートが現場海域に到着し、臨検チームを派遣して、小型ボートを臨検した。

記事要旨：ギリシャ籍船のばら積船、MV *Anangel Innovation* (171,681DWT) は16日朝、アデン湾の安全回廊 (IRTC) を航行中に小型ボートに接近されていると通報した。護衛活動中の海上自衛隊護衛艦、JDS *Murasame* から発進したヘリが現場海域に到着し、梯子を積んだ不審なボートを視認した。海賊は襲撃を止め、武器やその他の装備類を海中に投棄した。海自ヘリは監視を継続すると共に、関係各機関や付近の各国海軍戦闘艦に通報した。NATO 艦隊所属のオランダ海軍フリゲート、HNLMS *De Zeven Provinciën* が現場海域に到着し、臨検チームを派遣して、小型ボートを臨検した。以下はその時の様子を示す防衛省配信の写真である。

記事参照：Bulker evades pirates；購読者のみアクセス可能

防衛省 HP；<http://www.mod.go.jp/j/press/news/2010/08/16c.html>



出典：防衛省 HP；<http://www.mod.go.jp/j/press/news/2010/08/16c.pdf>

8月16日「タイ、海軍戦闘艦をアデン湾に派遣」(The Bangkok Post, August 16, 2010)

タイ政府は16日の閣議で、海賊対処のためにアデン湾に海軍戦闘艦を派遣する提案を承認した。政府報道官によれば、タイは371人の要員と海軍艦艇を9月初めに98日間の予定で派遣する。

記事要旨：タイ政府は16日の閣議で、国防相から出された海賊対処のためにアデン湾に海軍戦闘艦を派遣する提案を承認した。政府報道官によれば、タイは371人の要員と海軍艦艇を9月初めに98日間の予定で派遣する。艦艇の隻数や艦種は明らかにされていない。同報道官によれば、派遣費用として、約2億7,000万バツの予算が組まれている。

記事参照：Thai navy to battle Somali pirates

<http://www.bangkokpost.com/news/politics/191353/nod-for-navy-to-join-fighting-somalia-pirates>

8月17、18日「フランス海軍戦闘艦、海賊の小型ボートを臨検」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, August 17, 18, 2010)

EU艦隊に所属するフランス海軍フリゲート、FS *De Grasse* は17、18日の両日、アデン湾で海賊の小型ボートを臨検した。

記事要旨：EU艦隊に所属するフランス海軍フリゲート、FS *De Grasse* は17、18日の両日、アデン湾で海賊の小型ボートを臨検した。17日、NATO艦隊の旗艦、デンマーク海軍フリゲート、HDMS *Esbern Snare* から通報があり、EU艦隊のイタリア海軍フリゲート、ITS *Libeccio* のヘリが発進し、小型ボートに3発の警告射撃を行った。付近の海域に居た、フランス海軍フリゲート、FS *De Grasse* が小型ボートを停船させ、臨検の上、装備類を押収した。以下の写真はその時の様子である。

18日には、アデン湾を通航中の船舶から通報を受け、20カイリ離れた海域を哨戒中のフランス海軍フリゲート、FS *De Grasse* は、ヘリを発進させ、小型ボートを視認し、警告射撃で停船させた。同艦から臨検チームが派遣され、臨検した。それまでに、6人の海賊容疑者は装備類を海中に投棄した。

記事参照：Suspected pirate skiff disrupted by new EU NAVFOR flag ship FS DE GRASSE and ITS LIBECCIO'S helicopter

<http://www.eunavfor.eu/2010/08/suspected-pirate-skiff-disrupted-by-new-eu-navfor-flag-ship-fs-de-grasse-and-its-libeccio%E2%80%99s-helicopter/>

Another suspected pirate skiff disrupted by FS De Grasse

<http://www.eunavfor.eu/2010/08/another-suspected-pirate-skiff-disrupted-by-fs-de-grasse/>



Suspected pirate skiff disrupted by EU NAVFOR, the boarding team of FS *De Grasse*

Source: <http://www.eunavfor.eu/2010/08/suspected-pirate-skiff-disrupted-by-new-eu-navfor-flag-ship-fs-de-grasse-and-its-libeccio%e2%80%99s-helicopter/>

【関連記事】

「フランス海軍戦闘艦、3日間で3度目の臨検」(EU NAVFOR Public Affairs Office, Press Release, August 20, 2010)

フランス海軍フリゲート、FS *De Grasse* は19日も、アデン湾で海賊容疑者の乗った小型ボートを臨検した。3日間で、3度目の臨検となった。

記事要旨：フランス海軍フリゲート、FS *De Grasse* は19日、アデン湾で海賊容疑者の乗った小型ボートを臨検した。3日間で、3度目の臨検となった。このボートとダウ船は、安全回廊（IRTC）を哨戒中の海上自衛隊の哨戒機によって視認され、現場から約50カイリ離れた海域にいた、FS *De Grasse* が急行した。同艦からヘリが発進すると共に、臨検チームが派遣された。6人の海賊容疑者がボートに乗っていたが、証拠となるような装備類は既に海中に投棄されていた。6人は尋問のためにFS *De Grasse* に移され、その後釈放され、ソマリア沿岸に到着することができた。

記事参照：Third disruption in three days for new EUNAVFOR French Flag Ship DE GRASSE
<http://www.eunavfor.eu/2010/08/third-disruption-in-three-days-for-new-eunavfor-french-flag-ship-de-grasse/>

1.2 軍事動向

8月1日「中国中央テレビ、北海艦隊演習を放送」(環球時報、August 1, 2010)

1日付の解放軍報によると、7月27日、青島付近の近海で、北海艦隊主導の合同搜索救難訓練が実施された。今次の演習は北海艦隊主導で、北海艦隊航空部隊、保障基地、山東海事局、交通部北海球助教区、北海第一救助飛行隊などの7つの軍と地方組織の合同で行われた。

記事要旨：1日付の解放軍報によると、7月27日、青島付近の近海で、北海艦隊主導の合同搜索救

難訓練が実施された。今次の演習は北海艦隊主導で、北海艦隊航空部隊、保障基地、山東海事局、交通部北海球助教区、北海第一救助飛行隊などの7つの軍と地方組織の合同で行われた。海上で負傷者などを救助し、甲板で火災を起こした船舶の消火を行ったという。演習は7時間にわたり、12隻の艦船、2機のヘリコプター、5つの応急保障部隊の800名が参加した。

記事参照：原文は中国語；

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-08/02/content_34815.htm

1日付の環球時報の報道によると、7月28日に中国中央テレビが南シナ海の演習の一部を放送した。専門家がこれを見る限り、南海艦隊の「海口」、「武漢」、北海艦隊の「石家庄」、東海艦隊の「現代」駆逐艦など中国海軍の各艦隊の主力艦が参加した模様であるという。

記事参照：原文は中国語；

http://news.xinhuanet.com/mil/2010-08/01/content_13947485.htm

8月1日「海軍機関紙・『人民海軍』、南シナ海演習を評価」（新華網、August 1, 2010）

1日付の新華網は、中国海軍の機関紙『人民海軍』が掲載した南シナ海演習の記事を転載した。それによると、『人民海軍』は今次の演習を、7月26日に南海艦隊主導で行われた海軍の多兵種合同実弾演習は、中国海軍史上、訓練要素が最も全般的で、発射したミサイルが最も多く、情報化レベルも最高のもので、電磁環境も最も複雑な対戦型・実戦的な訓練であるなどと、評価している。

記事要旨：1日付の新華網は、中国海軍の機関紙『人民海軍』が掲載した南シナ海演習の記事を転載した。それによると、『人民海軍』は今次の演習を次のように報じている。

- (1) 7月26日に南海艦隊主導で行われた海軍の多兵種合同実弾演習は、中国海軍史上、訓練要素が最も全般的で、発射したミサイルが最も多く、情報化レベルも最高のもので、電磁環境も最も複雑な対戦型・実戦的な訓練である。
- (2) 訓練は3つのエリア、1万8,000平方キロメートル強の海域で展開し、16型・71基のミサイルを発射した。
- (3) 海軍は胡錦濤主席と中央軍事委員会の戦略配置を徹底し、システム化された作戦能力の向上に努め、訓練では情報、指揮、作戦プラットフォームと武器システム間のネットワークを初歩的に実現した。
- (4) 今次の演習も海軍における情報システムの戦時における検証であった。

記事参照：原文は中国語；

http://news.xinhuanet.com/mil/2010-08/01/content_13947419.htm

8月2日「解放軍報、高速ミサイル艇の意義を紹介」（解放軍報電子版、August 2, 2010）

2日付の解放軍報は高速ミサイル艇の紹介記事を掲載し、その特徴や、今後の発展方向について、その意義を論評した。

記事要旨：2日付の解放軍報は高速ミサイル艇の紹介記事を掲載した。

- (1) ミサイル艇は沿岸から近海にかけての海域で1艇あるいは他の兵力と共同し、敵の水上艦にミサイル攻撃や、パトロール、警戒、対潜戦などに使用できる。
- (2) 目標としては小さく、高速航行可能で機動力があり、攻撃力が大きく、隠れて行動し急襲できるなどの特徴をもつ。
- (3) しかし、比較的波に対する耐性が低く、作戦半径が小さく、自衛能力は弱い。

- (4) 今後のミサイル艇の発展趨勢は次の4つ。①高浪でも航行可能な性能の向上、②目視距離を超えた射程の対艦ミサイルと軽量対空ミサイルを装備、攻撃力と自衛力増大、③ヘリコプター装備によって、パトロール範囲を拡大し対応能力を向上、④新デザイン、新素材、新装備を採用し、艦の総合的性能の向上。



記事参照：原文は中国語；

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-08/02/content_34792.htm

8月2日「ロシア、シリア・タルトゥス港を海軍基地に」(RIA Novosti, August 2, 2010)

ロシア海軍参謀総長は2日、ロシア海軍はシリアのタルトゥス港にある海軍の補給・補修施設を大型戦闘艦が寄港できるように改修する、と語った。それによれば、改修の第1段階は2012年に完了し、誘導ミサイル巡洋艦や空母も寄港可能な海軍基地となる。同港は、地中海における恒久的な海軍力のプレゼンスを確立するための拠点となる。

記事要旨：ロシア海軍のヴィソツキー (ADM Vladimir Vysotsky) 参謀総長は2日、ロシア海軍はシリアのタルトゥス港にある海軍の補給・補修施設を大型戦闘艦が寄港できるように改修する、と語った。同参謀総長によれば、改修の第1段階は2012年に完了し、誘導ミサイル巡洋艦や空母も寄港可能な海軍基地となる。同港の施設は、旧ソ連時代の1971年のシリアとの協定に基づいて、ロシアが運用してきた。しかし1992年以来、3本ある浮き桟橋の内、1本しか運用されていない。ロシア海軍の専門家によれば、同港は、地中海における恒久的な海軍力のプレゼンスを確立するための拠点となる。メドヴェージェフ大統領は2009年11月、世界の海洋におけるロシア海軍のプレゼンスを強化するとの方針を明らかにしている。現在のロシア海軍は、数隻の戦闘艦が定期的に外洋に展開しているに過ぎない。

記事参照：Russian Navy to base warships at Syrian port after 2012

<http://en.rian.ru/russia/20100802/160041427.html>

8月2日「中国海軍・海賊対処第5次派遣部隊、イタリアを訪問」(解放軍報電子版、August 3, 2010)

中国海軍・海賊対処第5次派遣部隊の「広州」「巢湖」は、帰国の途次、エジプト、イタリア、ギリシャ、ミャンマーを訪問した。

記事要旨：中国海軍・海賊対処第5次派遣部隊の「広州」「巢湖」は2日、イタリアのタラント港を訪問した。同部隊は、アデン湾・ソマリア沖での海賊対処任務を終え、エジプト、イタリア、ギリシャを順次訪問する予定という。

記事参照：原文は中国語；

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-08/03/content_34962.htm

http://eng.mod.gov.cn/DefenseNews/2010-08/03/content_4180260.htm

【関連記事 1】**「中国海軍・海賊対処第5次派遣部隊、ギリシャを訪問」(解放軍報電子版、August 10, 2010)**

中国海軍・海賊対処第5次派遣部隊の「広州」「巢湖」は9日、ギリシャのピレウス港を訪問した。

記事要旨：中国海軍・海賊対処第5次派遣部隊の「広州」「巢湖」は9日、ギリシャのピレウス港を訪問した。中国海軍は2009年1月、2010年2月の2度、海賊船に包囲されていたギリシャ商船を護衛し、20隻余りのギリシャ商船にエスコート護衛を行った経緯がある。

記事参照：原文は中国語；

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-08/10/content_35569.htm

【関連記事 2】**「中国海軍・海賊対処第5次派遣部隊、ミャンマーを訪問」(解放軍報電子版、August 30, 2010)**

中国海軍・海賊対処第5次派遣部隊の「広州」「巢湖」は29日、ミャンマーを訪問した。

記事要旨：中国海軍・海賊対処第5次派遣部隊の「広州」「巢湖」は29日、ミャンマーを訪問した。中国の艦隊が同国を訪問するのは初めてであるという。在ミャンマー中国大使館関係者、中国企業関係者、華僑、留学生など200名に迎えられたという。

記事参照：原文は中国語；

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-08/30/content_37236.htm

8月4日「北海艦隊の航空部隊が演習を実施」(解放軍報電子版、August 4, 10, 2010)

4日付の解放軍報は、北海艦隊の航空部隊が全任務・全兵種・全兵器を演練する実戦型の攻撃演習を行ったと報じた。10日付の記事では、4日に同部隊は、遼寧省の遼東半島、山東省の膠東半島で夜間飛行訓練を実施した。

記事要旨：4日付の解放軍報は、北海艦隊の航空部隊が全任務・全兵種・全兵器を演練する実戦型の攻撃演習を行ったと報じた。10日付の記事では、8月4日に同部隊は、遼寧省の遼東半島、山東省の膠東半島で夜間飛行訓練を実施した。当該演習は午前1時半に開始し、3時27分に終了した。訓練では、初めての離陸地点から飛びたち、あらかじめ決められた海上のエリアで集合し、高高度、全方向、そして超低空飛行訓練を行ったという。また、当該軍区は海空の情報ハブの任務を受け持つため、夜間、特に深夜の飛行訓練を重視しているという。

記事参照：原文は中国語；

http://eng.mod.gov.cn/DefenseNews/2010-08/04/content_4180888.htm

http://eng.mod.gov.cn/DefenseNews/2010-08/10/content_4182681.htm

8月5日「韓国軍、最大規模の対潜演習開始」(BBC News, August 5, 2010)

韓国軍は5日、最大規模の対潜演習を黄海で開始した。演習には、人員約4,500人、29隻の戦闘艦艇、50機の航空機が参加して、5日間に亘って行われる。

記事要旨：韓国軍は5日、最大規模の対潜演習を黄海で開始した。演習には、人員約4,500人、29隻の戦闘艦艇、50機の航空機が参加して、5日間に亘って行われる。北方限界線に近い海兵隊が駐留する島では、南方に向けて実弾射撃演習が実施される。合同参謀本部の高官は、「演習の重点は、敵の非対称的な挑発への対応能力と統合運用能力を強化することにある」と語っている。

記事参照：South Korea begins massive military drill

<http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-pacific-10875916>



Source: BBC News, August 5, 2010

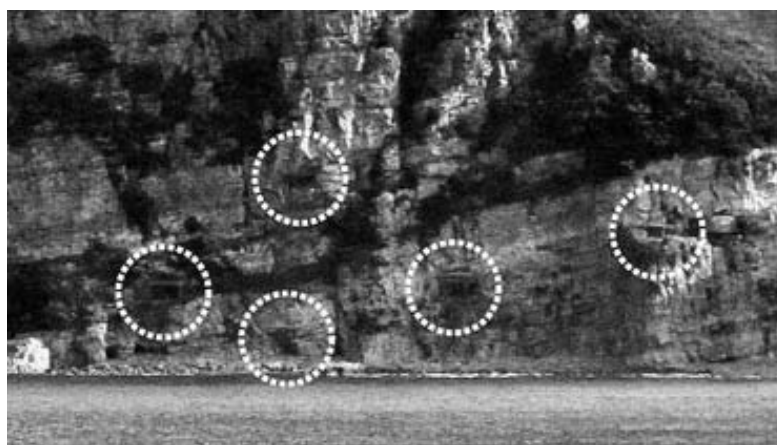
【関連記事】「北朝鮮、黄海に約 130 発砲撃」(The Chosun Ilbo, August 10, 2010)

北朝鮮は 9 日、北方限界線近くの海域に、無警告で約 130 発の砲弾を撃ち込んだ。韓国国防部と合同参謀本部によれば、全ての砲弾は北方限界線の北側の海域に着弾したという。

記事要旨：韓国の合同参謀本部によれば、北朝鮮は 9 日、北方限界線近くの海域に、無警告で約 130 発の砲弾を撃ち込んだ。北朝鮮の 130 ミリ沿岸砲は、27 キロの射程を持つ。韓国国防部と合同参謀本部によれば、全ての砲弾は北方限界線の北側の海域に着弾したという。砲撃は、韓国の対潜演習が終了した翌日の出来事である。

記事参照：N. Korea Fires Artillery Near Sea Border

http://english.chosun.com/site/data/html_dir/2010/08/10/2010081000339.html



North Korean coastal artillery batteries (in dotted circles) on Jangsan Cape in this satellite image taken Monday (August 9, 2010)

Source: The Chosun Ilbo, August 10, 2010

8 月 8 日「米、ベトナムと合同海軍演習を実施」(U.S. 7th Fleet Public Affairs, August 8, and U.S. Navy News Service, August 10, 2010)

米海軍第 7 艦隊は 8 日、中部ベトナムのダナン沖で、米越国交正常化 15 周年を記念する、ベトナム

ム海軍との合同演習を開始した。米側からは、空母、USS *George Washington* (CVN 73)、誘導ミサイル駆逐艦、USS *John S. McCain* (DDG 56) などからなる、Task Force 73 が参加した。演習終了後、USS *John S. McCain* (DDG 56) は 10 日、ダナン港に寄港した。

記事要旨：米海軍第 7 艦隊は 8 日、中部ベトナムのダナン沖で、米越国交正常化 15 周年を記念する、ベトナム海軍との合同演習を開始した。米越海軍による記念行事は 1 週間に亘って行われる。米側からは、空母、USS *George Washington* (CVN 73)、誘導ミサイル駆逐艦、USS *John S. McCain* (DDG 56)、USS *Curtis Wilbur* (DDG 54)、USS *Chung-Hoon* (DDG 93) 及び USS *McCampbell* (DDG 85) からなる、Task Force 73 が参加した。合同演習は非軍事的なもので、ダメージ・コントロール、捜索救難、調理や補修技術などの技能交流などが実施される。ベトナムの政府と軍部の代表は 8 日、ダナンから沖合の米空母、USS *George Washington* に着艦し、米海軍側と会談すると共に、演習を視察した。Task Force 73 のホートン (RADM Ron Horton) 司令官は、「これは、米越関係の緊密な結びつきを誇示するもので、各種行事は両国海軍の相互理解を促進し、将来に向けての関係を構築していく上で重要である」と強調した。

演習終了後、USS *John S. McCain* (DDG 56) は 10 日、ダナン港に寄港した。同艦のベトナム訪問は、これが最初である。

記事参照：Seventh Fleet Kicks off Vietnam Naval Engagement Activities

<http://www.c7f.navy.mil/news/2010/08-August/07.htm>

USS McCain Arrives in Vietnam to Commemorate 15th Anniversary of Diplomatic Relations

http://www.navy.mil/search/display.asp?story_id=55216

8 月 16 日「豪海軍主催多国間海上合同演習、開始」(Australian Navy HP, Press Release, August 14, 2010)

オーストラリア海軍は 16 日～9 月 3 日までの間、ダーウィン沖で多国間海上合同演習、Exercise KAKADU 2010 を実施する。この演習には、タイ、シンガポール、ニュージーランド及び日本の 4 カ国から 3,000 人以上の人員、艦艇、航空機が参加する。

記事要旨：オーストラリア海軍は 16 日～9 月 3 日までの間、ダーウィン沖で多国間海上合同演習、Exercise KAKADU 2010 を実施する。この演習には、タイ、シンガポール、ニュージーランド及び日本の 4 カ国から 3,000 人以上の人員、艦艇、航空機が参加する。オーストラリア海軍からは 8 隻の艦艇と航空機が参加する。この演習は、多国間任務におけるインターオペラビリティの促進を狙いとするもので、今回で 20 回目となる。なお、日本からは、護衛艦「あけぼの」と P-3C 海上哨戒機 2 機が参加する。また、フランス、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、パプアニューギニア及びフィリピンがオブザーバーとして参加する。

記事参照：Exercise KAKADU 2010 begins off Darwin

http://www.navy.gov.au/Exercise_KAKADU_2010_Begins_Off_Darwin

8 月 16 日「豪ダーウィンに米軍基地を一豪専門家提唱」(The Australian, August 19, 2010)

豪紙、*The Australian* の外交論説委員で、米国の The Woodrow Wilson International Center for Scholars の客員研究員、G・シェリダン (Greg Sheridan) は 19 日付の同紙で、オーストラリアの新政権が直面するアジア太平洋地域における複雑な安全保障環境は益々激化する米中間の抗争であ

ろうと見、そこで決断を迫られる可能性が高いのは北部のダーウィンに米軍の大規模な基地施設を受け入れるかどうかである、とする論説を寄稿している。

記事要旨：豪紙、*The Australian* の外交論説委員で、米国の The Woodrow Wilson International Center for Scholars の客員研究員、G・シェリダン (Greg Sheridan) は 19 日付の同紙で、オーストラリアの新政権が直面するアジア太平洋地域における複雑な安全保障環境は益々激化する米中間の抗争であろうと見、そこで決断を迫られる可能性が高いのは北部のダーウィンに米軍の大規模な基地施設を受け入れるかどうかであると指摘し、要旨以下のように述べている。

- ①アジアでは誰もが米軍のプレゼンスを望んでいるが、それを公に擁護する指導者はほとんどいない。1 つには中国に不快感を与えることを恐れ、またもう 1 つには国内の反米感情を煽ることを恐れているからである。
- ②オーストラリアの国際政策にとって、安全保障と通商の両面で米国をアジアに全面的に関与させることが不可欠である。米国はアジアで、日本、韓国、タイ、フィリピン及びオーストラリアと安全保障条約を結んでいる。また、ベトナムとは、あらゆる側面で強力な戦略的関係を発展させつつある。インドネシア、マレーシアとも関係を強化している。これらは、1 つには域内における中国に対するヘッジ政策であり、同時に、アジアにおける米国のプレゼンスを全面的に刷新しようとする、オバマ政権の決意の表れでもある。
- ③シンガポールで 6 月に開催された、「シャングリラ対話」で、ゲーツ米国防長官は、「同盟国、パートナー国そして地域に対する米国の最大の義務は、域内に対する米国の安全保障コミットメントを再確認することである」と述べている。更に、同長官は、「米国のコミットメントと抑止力の強さは、域内に相当規模の米軍のプレゼンスを維持することで表明される。そこでは、全体として以下のような趨勢が見られることを指摘しておかなければならない。即ち、アジアにおける米国の防衛態勢は、これまで以上に地理的に分散され、より弾力的に運用され、政治的に持続可能なものに移行しつつあることである。グアムへの戦力増強は、その一環といえる」と強調している。
- ④では、東南アジアやその周辺で、米軍のプレゼンスが地理的により分散され、より弾力的に運用でき、政治的に持続可能な場所を探せば、どこになるか。それが「ダーウィン」だというのは、明らかであろう。問題は資金である。米国には、新たな大規模基地を建設する資金はないであろう。しかし、ダーウィンに、相当規模の米海空軍戦力、更には海兵隊部隊さえも駐留させ、加えて一定規模の装備資材の事前集積を備えて置くことは、それだけで大きな意味を持つことになる。

記事参照：Best place for a larger US base

<http://www.theaustralian.com.au/national-affairs/commentary/best-place-for-a-larger-us-base/story-e6fgd0x-1225907038866>

8 月 16 日「米国防省、中国の軍事動向に関する年次報告書公表」(U.S. Department of Defense HP, August 16, 2010)

米国防省は 16 日、中国の軍事動向に関する年次報告書、Annual Report to Congress: Military and Security Developments Involving the People's Republic of China 2010 を公表した。今回の報告書は例年の 3 月頃とは大幅に遅れての公表であり、また、タイトルも例年の、Annual Report to Congress: Military Power of the People's Republic of China とは異なっている。

記事要旨：米国防省は 16 日、中国の軍事動向に関する年次報告書、Annual Report to Congress: Military and Security Developments Involving the People's Republic of China 2010 を公表した。

今回の報告書は例年の 3 月頃とは大幅に遅れての公表であり、また、タイトルも例年の、**Annual Report to Congress: Military Power of the People's Republic of China** とは異なっている。

報告書は、この 1 年間の中国の軍事力に見る注目すべき出来事として以下の諸点を指摘している。

- ①中国軍は 2009 年 12 月までに、1,050～1,150 基の短距離弾道ミサイル (SRBM) を台湾海峡の対岸に配備した。
- ②中国は中距離弾道ミサイル (MRBM) をベースとした対艦弾道ミサイル (ASBM) を開発中で、その射程は 1,500 キロを超え、中国は西太平洋の空母を含む戦闘艦を攻撃する能力を持つことになる。
- ③海南島の海軍基地の建設が基本的に完了した。この基地は、攻撃型潜水艦と弾道ミサイル潜水艦、及び最新の水上新鋭艦を収容する十分な広さを持つ。この基地は地下施設を持っており、中国海軍は、重要な国際シーレーンへの直接的なアクセスを確保すると共に、南シナ海に潜水艦を隠密裏に出撃させる能力を持つことになった。
- ④中国は空母の研究開発を進めており、2010 年末までに国産空母の建造を開始する可能性がある。中国は、今後 10 年以内に、支援艦艇を備えた複数の空母戦闘群の建造することに関心を持っている。中国海軍は既に、空母から固定翼機を運用するために、50 人のパイロット要員の訓練計画を開始したといわれる。
- ⑤過去 10 年間に見る中国の軍事力近代化の速度と範囲は拡大してきており、外交上の利益を得たり、あるいは紛争領域における有利な解決を図ったりする上で、中国にとって軍事力活用の選択肢が増えてきている。

報告書全文は以下から入手可：

http://www.defense.gov/pubs/pdfs/2010_CMPR_Final.pdf

【関連記事】

「中国国防部スポークスマン、米国防省報告書に反発」(解放軍報電子版、August 18, 2010)

中国国防部スポークスマンは 18 日、米国防省が発表した報告書「中華人民共和国の軍事と安全保障の発展 2010」に対し、中国は終始平和発展の道を歩み、防御的な国防政策をとり、軍備競争をせず、いかなる国家の軍事的脅威にならない、と強調した。

記事要旨：中国国防部スポークスマンの耿雁生は 18 日、米国防省が発表した議会報告書「中華人民共和国の軍事と安全保障の発展 2010」に対し、中国側は反対することを強調した。耿雁生の発言要旨は以下のとおりである。

- (1) 中国は終始平和発展の道を歩み、防御的な国防政策をとり、軍備競争をせず、いかなる国家の軍事的脅威にならない。
- (2) 中国軍の発展は合理的、適度で、国家主権、安全保障と領土の一体性を守るため、そして世界の軍事変革の迅速な発展の潮流に順応するためである。
- (3) 中国軍は積極的に対外交流と協力を展開し、世界の平和と地域の安定に努力している。
- (4) 中国は一貫して中米の両軍関係を重視し、努力している。中国の国防と軍隊建設を公正に受け止め、議会報告の発表を停止することが、両軍関係の改善と発展に必要である。

記事参照：http://www.chinamil.com.cn/jfbmap/content/2010-08/19/content_36351.htm

8月17日「パナマ運河で多国間演習、実施」(MercoPress (South Atlantic News Agency), August 18, 2010)

パナマ運河防衛の多国間努力の一環として、18カ国から2,000人以上の文民、軍人が参加する多国間統合演習、PANAMAX 2010が17日に始まった。演習期間は12日間である。

記事要旨：パナマ運河防衛の多国間努力の一環として、18カ国から2,000人以上の文民、軍人が参加する多国間統合演習、PANAMAX 2010が17日に始まった。演習期間は12日間である。演習の目的は、パナマ運河に対する脅威対処のために、参加各国の陸、海、空軍及び特殊部隊要員の地域間協力を促進すると共に、域内の災害時における大規模な災害対処や人道的支援計画を演練することである。パナマ政府と米南方軍が共催するPANAMAX 2010は世界でも最大規模の多国間演習で、パナマ運河周辺で8月27日まで実施される。

記事参照：Military exercise to defend the Panama Canal brings together 18 countries

<http://en.mercoPress.com/2010/08/18/military-exercise-to-defend-the-panama-canal-brings-together-18-countries/>

8月18日「中国海軍練習艦・鄭和とミサイル駆逐艦・綿陽、パプアニューギニアを訪問」(解放軍報英語版、August 18, 2010)

中国海軍の練習艦・鄭和とミサイル駆逐艦・綿陽は17日、パプアニューギニアのポートモレスビーに到着し、4日間の友好訪問を行った。26日にバヌアツに到着し、4日間の友好訪問を開始した。

記事要旨：中国海軍の練習艦・鄭和とミサイル駆逐艦・綿陽は17日、パプアニューギニアのポートモレスビーに到着し、4日間の友好訪問を行った。中国の艦隊が同国を訪問するのは、両国が外交関係を結んで以来初めてのことであり、指揮官をつとめる海軍副参謀長の冷振慶少将は、今次の訪問は「和諧海洋」の概念の普及と、両国の交流を促進するために重要な意義があると語った。

記事参照：http://eng.mod.gov.cn/DefenseNews/2010-08/18/content_4185509.htm

【関連記事】

「中国海軍練習艦・鄭和とミサイル駆逐艦・綿陽、バヌアツを訪問」(解放軍報英語版、August 26, 2010)

中国海軍の練習艦・鄭和とミサイル駆逐艦・綿陽は、26日にバヌアツに到着し、4日間の友好訪問を開始した。

記事要旨：中国海軍の練習艦・鄭和とミサイル駆逐艦・綿陽は、26日にバヌアツに到着し、4日間の友好訪問を開始した。同国を中国海軍の艦隊が訪問することは初めてである。訪問期間通、艦艇を一般開放するという。

記事参照：原文は中国語；

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-08/27/content_37015.htm

8月23日「日本、ジブチに軍事基地を建設へ」(Shiptalk, August 23, 2010)

日本政府は、ジブチに軍事基地を建設する計画である。在エチオピアの駒野欽一大使によれば、この計画は、ソマリアの海賊対処活動を強化すると共に、持続的な活動を継続することが狙いである。

記事要旨：日本政府は、ジブチに軍事基地を建設する計画である。在エチオピアの駒野欽一大使に

よれば、この計画は、ソマリアの海賊対処活動を強化すると共に、持続的な活動を継続することが狙いである。これに先立つ数週間前に、ジブチに軍事基地を建設するために日本とジブチ間で土地貸与協定が締結され、日本は、米国とフランスに次いで、ジブチに軍事基地を持つ3番目の国となった。日本は現在、護衛艦2隻と航空機2機を海賊対処のために派遣している。何故、日本が自前の基地を持つのかについて、駒野大使は、日本の哨戒機は現在、ジブチ国際空港に間借りしており、長期間にわたって作戦スタッフを米軍基地に寝泊まりさせたくない、と語った。

記事参照：Land Forces；<http://www.shiptalk.com/?p=5558>

1.3 海洋境界

8月2日「中国の南シナ海に対する領有権主張の背景—専門家の見方」(The Straits Times, August 2, 2010)

シンガポールの the Institute of Southeast Asian Studies 客員研究員、マイケル・リチャードソンは、2日付のシンガポール紙、*the Straits Times* に“Chinese patience limited over maritime underbelly”と題する論説を寄稿し、中国は急速に発展する経済を支え、より遠海にバッファーを設けることで安全を高めることを望んでいるが、中国のEEZは大きな広がりを持っていないとして、中国の南シナ海に対する領有権主張の背景に言及し、武力行使の可能性さえ示唆している。

記事要旨：シンガポールの the Institute of Southeast Asian Studies 客員研究員、マイケル・リチャードソン (Michael Richardson) は、2日付のシンガポール紙、*the Straits Times* に“Chinese patience limited over maritime underbelly”と題する論説を寄稿している。リチャードソンはこの中で、中国は急速に発展する経済を支え、より遠海にバッファーを設けることで安全を高めることを望んでいるが、中国のEEZは大きな広がりを持っていないとして、中国の南シナ海に対する領有権主張の背景について、要旨以下の諸点を指摘している。

- ①中国は世界第3位の陸地面積を有する国だが、海岸線が比較的短く、また沿岸から離れた海域に固有の島嶼を保有していないために、米国、ロシア、カナダ及び日本のように、広大なEEZを持たない。中国の国際的に承認されたEEZは88万平方キロに過ぎず、米国の1,200万余、ロシアの750万以上、カナダ550万及び日本の440万各平方キロと比べて、はるかに少ない。
- ②中国が小さな沿岸国に貶められたのは、数世紀にわたって中国の領有の下にあった南シナ海と東シナ海の島嶼を手放さざるを得なかった弱体な時代に、アジアを植民地化し、分割支配してきた米国、日本、英国及びヨーロッパ諸国の所為である、と中国は主張する。
- ③中国大陸の沿岸は、北から渤海、黄海、東シナ海そして南シナ海に面している。渤海は中国領土に取り囲まれ、中国は内水と主張している。黄海の沿岸は、南北朝鮮と共有している。2つの海は繋がっているが、比較的小さな海である。日本の南西諸島と中国との間にある東シナ海では、日中間にEEZの境界を巡って紛争があり、両国の主張が重なる海域は13万平方キロに及ぶ。南シナ海は、沿岸国として中国にとって最大の海域である。中国は、4つの海域で473万平方キロのEEZを持ち、その内、最大350万平方キロが南シナ海にある、と主張している。南シナ海は、アジアの海のハートランドであり、同時に中国のセンシティブな下腹部でもある。

- ④中国は、西沙諸島と南沙諸島を含む、南シナ海の多くの島嶼、環礁、岩礁、砂州に対する領有権を主張している。その内、西沙諸島についてはベトナムが、南沙諸島については、ベトナムが全面的な領有権を、そしてフィリピンとマレーシアが一部の領有権を、それぞれ主張している。中国は2009年5月、潘基文国連事務総長宛の書簡に、領有権の及ぶ海域を示す地図を添付し、こうした主張を再確認した。この海域は南シナ海の最大80%をカバーしており、中国は、この地図で示す範囲内にある島嶼群と接続水域に対して、「議論の余地ない主権」を有すると共に、その周辺水域と海底に対する主権的管轄権を有すると宣言している。
- ⑤こうした中国の主張に対して、インドネシアは、7月8日付けの国連事務総長宛の書簡で、「明らかに国際的な法的論拠を欠き」、国連海洋法条約を危機に陥れ、「国際社会の合法的な利益を侵害する」ものである、と反駁している。インドネシアの書簡は、南沙諸島の島嶼群に対する領有権を基にEEZや大陸棚の延伸を主張できない、と指摘している。南沙諸島は100を超える島嶼、環礁、岩礁などからなるが、そのほとんどが国連海洋法条約にいう「島」ではなく、EEZも大陸棚も有しない。
- ⑥中国は、南シナ海の失われたと称する領土をどこまで取り戻すつもりか。中国は、武力による威嚇や武力を行使するか。中国は、チベットや新疆を併合するために武力を行使し、これらを台湾と共に「核心利益」としている。2010年3月には、中国は、米政府高官に対して、南シナ海も「核心利益」と言明した。中国は1974年にベトナムから西沙諸島を武力で奪取し、1988年には南沙諸島でベトナムと衝突し、中国が南沙諸島に兵力を駐留させる端緒となった。1995年には、ベトナムとフィリピンが領有を主張する、ミスチーフ環礁を武力で占拠した。近年、中国は南シナ海問題で自制してきたが、その野望は大きく、その忍耐は限界に近いように思われる。

記事参照：Chinese patience limited over maritime underbelly

http://www.straitatimes.com/Review/Others/STIStory_560692.html

8月29日「シンガポール・インドネシア、海洋境界画定条約批准」(Bernama, August 30, 2010)

シンガポール・インドネシア両国は29日、シンガポール海峡の西部海域における領海確定に関する条約を批准し、シンガポール外務省で批准書を交換し、署名した。この条約で合意された境界は、1973年5月25日に両国が署名した条約で合意された両国の領海境界線を延長するものである。インドネシアとシンガポールは、シンガポール海峡東部海域については、境界画定問題を解決しなければならない。他方、マレーシアもインドネシアとの間で、シンガポール海峡東部海域についての境界画定問題が未可決となっている。

記事要旨：シンガポール・インドネシア両国は29日、シンガポール海峡の西部海域における領海確定に関する条約を批准した。両国の外相は、シンガポール外務省で批准書を交換し、署名した。在シンガポール・インドネシア大使館は声明で、両国間の領海は国際法規、特に両国とも加盟国である、国連海洋法条約に従って確定された、と述べている。この条約で合意された境界は、1973年5月25日に両国が署名した条約で合意された両国の領海境界線を延長するものである。インドネシア大使館の声明によれば、シンガポール海峡の西部海域におけるPulau Nipaの群島基線からPulau Karimum Besarまでの境界の画定によって（地図参照）、両国の法執行当局と航海管制当局が、境界の両側からシンガポール海峡における両国の義務規定を遂行することが可能になる。両国はこの条約によって、それぞれの国内法に基づいて自国の領海における安全保障、航海の安全確保、法執行及び海洋環境保護を遂行するための、法的根拠を得る。

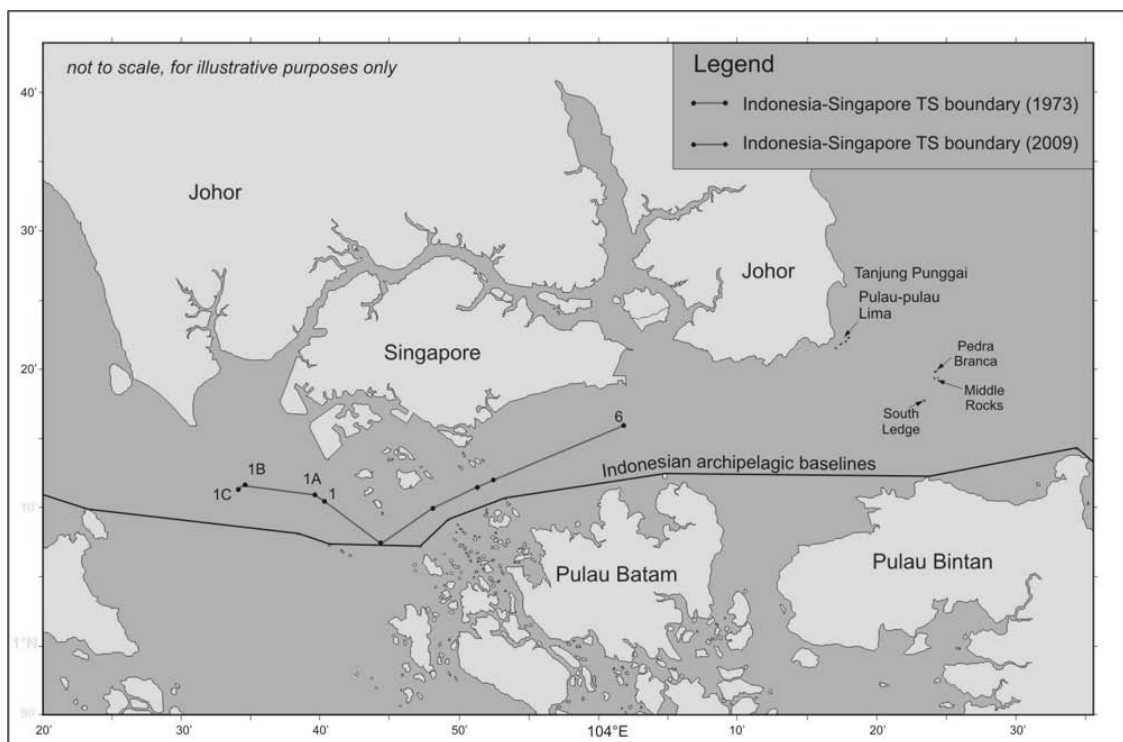
しかしながら、インドネシアとシンガポールは、Batam と Changi の間のシンガポール海峡東部海域、更には 2008 年の国際司法裁判所の判決（*）に関するシンガポールとマレーシアによる今後の交渉待ちとなっている、Bintan と South Ledge、Middle Rock 及び Batu Puteh の間の海域については、境界画定問題を解決しなければならない。（地図参照）

他方、マレーシアもインドネシアとの間で、シンガポール海峡東部海域の Johor と Bintan / Batam との間の海域についての境界画定問題が未可決となっている。この海域では最近、両国の法執行機関が接触し合うなど、問題となっている。

記事参照：Singapore, Indonesia Ratify Sea Boundary Treaty；

<http://bernama.com/bernama/v5/newsgeneral.php?id=525118>

*：この判決については、OPRF 海洋安全保障情報月報 2008 年 5 月号 1.3 外国・国際関係ホット・トピック参照。



The new maritime boundary agreement between Indonesia and Singapore

Source: http://www.asmmag.com/content_images/1674

【関連記事】

「インドネシア大統領、マレーシアとの海洋境界に関する協議開始を指示」(Antara News, August 21 and Xinhua, August 27, 2010)

インドネシアのユドヨノ大統領は 20 日、外相及び漁業・海洋問題相と会談し、両相に対して、マレーシアとの海洋境界に関する協議を開始するよう指示した。漁業・海洋問題相は、9 月初めにも協議が始まることを期待している、と語った。

記事要旨：インドネシアのユドヨノ大統領は 20 日、外相及び漁業・海洋問題相と会談し、両相に対して、マレーシアとの海洋境界に関する協議を開始するよう指示した。漁業・海洋問題相は、マレーシア当局と協議開始について話し合っており、9 月初めにも協議が始まることを期待している、と語った。

大統領指示の背景には、マレーシア海洋警察が 8 月 13 日にインドネシア漁業・海洋問題省の 3 人の担当官をリアウ諸島沖で拘束し、マレーシアに連行した事案があった。リアウ諸島駐留の 3 人の担当官は、インドネシア領海に侵入した廉で抑留したマレーシアの漁船をバンタム島に移送する途中であった。中国の新華社がインドネシアの *The Jakarta Post* 紙を引用して報じるところによると、この事案はインドネシア大衆の怒りをかき立てた。リアウ諸島海域の一部に対して、マレーシアは 1979 年発行の地図で領有権を主張している。

記事参照 : President orders immediate sea border talks with Malaysia

<http://www.antaranews.com/en/news/1282325674/president-orders-immediate-sea-border-talks-with-msia>

Indonesia mulls joint patrols in disputed waters

http://www.chinadaily.com.cn/xinhua/2010-08-27/content_773557.html

8 月 26 日「中国、南シナ海の海底に国旗打ち込み」(Reuters, August 27, 2010)

中国は 26 日、領有権を主張する南シナ海の深海底に、小型有人潜水艇を使って国旗を打ち込んだことを明らかにした。

記事要旨 : 中国は 26 日、領有権を主張する南シナ海の深海底に、小型有人潜水艇を使って国旗を打ち込んだことを明らかにした。中国メディアの報道によれば、5 月から 7 月にかけて、潜水艇による 17 回の潜航が行われ、最大深度、3,759 メートルに達した。詳細な海域には言及はないが、中国メディアによれば、中国の潜水艇の潜航深度としては、新記録であるという。今回の潜水艇の実験は、深海底の資源開発に参画する中国の意図を明らかにしたものと見られる。技術責任者の劉峰は、「今回の成功は、世界でも一握りの国しか保有していない有人深海潜航技術を、中国も保有することになったことを示している」と語っている。

記事参照 : Beijing claims to plant flag under South China Sea

<http://www.taipeitimes.com/News/front/archives/2010/08/27/2003481410>

1.4 外交・国際関係

8 月 5 日「ベトナム、中国による西沙諸島海域の海底探査に抗議」(Reuters, August 5, 2010)

ベトナム外務省報道官は 5 日、中国が 5 月から西沙諸島海域で地震波による海底探査を実施していることに対して、ベトナムの主権を侵害するものと抗議した。

記事要旨 : ベトナム外務省報道官は 5 日、中国が 5 月から西沙諸島海域で地震波による海底探査を実施していることに対して、ベトナムの主権を侵害するものと抗議した。同報道官は、「中国の行動は、西沙諸島に対するベトナムの議論の余地なき主権と大陸棚と 200 カイリの EEZ に対する主権の管轄権を侵害する」もので、中国に対して南シナ海における平和と安定を促進するために直ちに中止するよう要求した。

記事参照 : Vietnam says China violates its sovereignty in sea

<http://in.reuters.com/article/idINIndia-50656220100805>

8月6日「太平洋諸島国家との関係を重視：崔天凱・中国外交部副部長」(新華網、August 7, 2010、日本外務省、August 7, 2010)

崔天凱・中国外交部副部長は6日、バヌアツの首都ポートビラで開かれた第22回「太平洋諸島フォーラム」(PIF)域外国対話において、中国政府は太平洋諸島国家との友好協力関係を高度に重視していると発言した。

記事要旨：崔天凱・中国外交部副部長は6日、中国政府は太平洋諸島国家との友好協力関係を高度に重視していると発言した。バヌアツの首都ポートビラで開かれた第22回「太平洋諸島フォーラム」(PIF)域外国対話における崔天凱の発言のポイントは、以下の通り。

- (1) 太平洋諸島国家とのハイレベル交流、経済貿易協力、各種の経済技術援助の継続、人的文化交流の拡大、太平洋諸島国家地域組織との協力強化を通じ、平和共存5原則の基礎において、中国は太平洋諸島国家関係をさらに発展させたい。
- (2) 国際金融危機や地球温暖化などのグローバルな挑戦への対応に際し、中国は太平洋諸国を援助しており、太平洋諸島国家の経済社会の持続的発展を多いに支持している。

日本からは西村大臣政務官が出席し、キャンベル米國務次官補、崔天凱中国外交部副部長等とのバイ会談を行った。

記事参照：原文は中国語；

http://www.chinamil.com.cn/jfjbmap/content/2010-08/07/content_35321.htm

http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/pif/1008_gh.html

1.5 海運・造船・港湾

8月3日「インド、主要港に放射線探知機を2012年までに設置」(Fairplay Daily News, August 3, 2010)

インド海運省によれば、チェンナイ、ツチコリン、カンドラ及びムンバイなどのインドの主要港は2012年までに、放射線探知装置を設置する。海運省は2012年以降、民間港や小規模港にも放射線探知装置とX線スキャナーを設置していく計画である。

記事要旨：インド海運省によれば、インドの主要港は2012年までに、放射線探知装置を設置するよう指示された。この指示は、2009年2月にドイツ向けくず鉄の積荷から放射線物質が発見されたことを受けた対応措置である。装置設置に320万米ドルが見込まれている。現在、X線スキャナーはナビ・ムンバイ港でJ・ネルー・ポートトラストによって運用されているだけだが、チェンナイ、ツチコリン、カンドラ及びムンバイの各港にも設置されることになっている。海運省は2012年以降、民間港や小規模港にも放射線探知装置とX線スキャナーを設置していく計画である。インドの主要港は国内荷扱い量の70%を占める。

記事参照：Radioactive monitors ordered；購読者のみアクセス可能

8月10日「スエズ運河7月の収入、対前年比6.1%増」(Fairplay Daily News, August 10, 2010)

スエズ運河庁の7月の収入は対前年比6.1%増で、4億620万米ドル、2009年7月は3億8,290万米ドルであった。8月以降も、最近の水路の浚渫と世界貿易の回復、そして世界市場での石油価格の

上昇を背景に、堅実な収入増が見込まれるという。

記事要旨：IHS Global Insight の 10 日付報告によれば、スエズ運河庁の 7 月の収入は対前年比 6.1% 増で、4 億 620 万米ドル、2009 年 7 月は 3 億 8,290 万米ドルであった。2010 年 6 月の収入は 3 億 8,370 万米ドルであった。IHS Global Insight によれば、収入増は世界景気が徐々に回復してきていることを反映しており、8 月以降も、最近の水路の浚渫と世界貿易の回復、そして世界市場での石油価格の上昇を背景に、堅実な収入増が見込まれるという。

記事参照：Suez Canal revenues rise 6.1% ; 購読者のみアクセス可能

1.6 海洋資源・エネルギー・海洋環境・その他

8 月 20 日「インドネシア海域の海水温上昇、珊瑚礁に壊滅的被害」(UPI, August, 20, 2010)

最近の調査で、インドネシア北西部のアンダマン海域の海水温の上昇によって、この海域の珊瑚礁が壊滅的被害を受けていることが判明した。

記事要旨：最近の調査で、インドネシア北西部のアンダマン海域の海水温の上昇によって、この海域の珊瑚礁が壊滅的被害を受けていることが判明した。米国の NGO、the Wildlife Conservation Society の海洋生物学者による 2010 年 5 月の調査で、珊瑚礁の 60% 以上が「白化」していることを発見した。オーストラリアの James Cook University とインドネシアの Syiah Kuala University による 8 月までの調査では、80% 以上が「白化」していた。「白化」の原因は、海水温の上昇と直射日光に曝されるためとされる。アンダマン海の海表面の温度は平年より非常に高くなっている。米国立海洋大気圏局のデータによれば、5 月後半のこの海域の大気温は華氏 93 度で、平年より 7 度も上昇している。珊瑚礁は、世界の海表面の 1% を占めるに過ぎないが、全ての海洋生物の 25% の棲み家となっている。

記事参照：Coral reefs threatened by climate change

http://www.upi.com/Science_News/Resource-Wars/2010/08/20/Coral-reefs-threatened-by-climate-change/UPI-95991282323061/

8 月 23 日「シンガポール・韓国、海洋協力の強化に関する覚書に調印」(Marine Log, August 23, 2010)

シンガポールと韓国は 23 日、航行の安全と海洋環境の保護を促進するための両国間の協力強化に関する了解覚書 (MOU) に調印した。

記事要旨：シンガポールと韓国は 23 日、航行の安全と海洋環境の保護を促進するための両国間の協力強化に関する了解覚書 (MOU) に調印した。シンガポールの the Maritime and Port Authority of Singapore (MPA) と韓国の国土海洋部 (MLTM) で調印された MOU には、IMO、ReCAAP、更にはマラッカ・シンガポール海峡における航行の安全と環境保護に関する協力メカニズム、などの国際機構における協力も含まれている。MPA と MLTM はまた、フォーラム、ワークショップあるいはセミナーを通じて、海洋に関する技術知識を共有する。

記事参照：Singapore and South Korea strengthen maritime cooperation

<http://www.marinelog.com/DOCS/NEWSMMIX/2010aug00230.html>

2. 情報分析

解題

『海をかき混ぜる五つの龍：中国の海上法執行能力の改善への挑戦と機会』

中国の海上法執行体制は複雑であり、海洋先進諸国に比して未発達である。海上警察機能と海軍機能の区分も曖昧である。そのような中国の海上法執行体制の現状と展望について、アメリカ海軍大学の中国海洋研究所（China Maritime Studies Institute, U.S. Naval War College）が2010年4月に公表した、『海をかき混ぜる五つの龍：中国の海上法執行能力の改善への挑戦と機会』（*Five Dragons Stirring Up the Sea: Challenge and Opportunity in China's Improving Maritime Enforcement Capabilities*）¹（以下、報告書『五つの龍』と表記）の分析内容を紹介する。

1. 海上法執行能力

報告書『五つの龍』は、「中国では、軍事力と商業力との間に位置して沿岸域における法と秩序の維持を司る力、つまり海上ガバナンスに関連する力が弱い」とした上で、中国の海上法執行能力を以下のように評価している。

- (1) 戦力量が少ない。
- (2) 沿岸警備能力が低い。
- (3) 複数の組織に分かれており、それぞれの役割が不明確である。

戦力量については、以下の表を示して中型以上の巡視船艇が少ないとし、沿岸域パトロールのための航空機については、アメリカ沿岸警備隊が350機、日本の海上保安庁が75機保有するのに対し、中国は36機に過ぎないと指摘している。また、専門的な要員養成機関は寧波にある辺防総隊海警学校だけであるとして、教育面の弱さも指摘し、沿岸警備能力そのものも低いと評価している。

	中国	韓国	日本	米国
海岸線 (km)	18,000	11,542	30,000	160,550
大型 (3,500 トン～) 巡視船 (隻)	8	5	11	12
中型 (1,500 トン～) 巡視船 (隻)	19	9	37	32
小型 (500 トン～) 巡視船 (隻)	149	66	82	44
小型 (100 トン～) 巡視船 (隻)	304	111	107	258

（報告書『五つの龍』4頁。Original source: He Zhonglong et al., Research on the Building of the Chinese Coast Guard, pp. 142–43.）

分散する形となっている海上法執行体制については、沿岸警備隊として整理統合される以前の未発達の段階にあり、それぞれの役割は不明確であるとしている。更に、法執行機能の分散化が、中国における沿岸警備能力の統合された増強を拒んできたと評している。

¹ Lyle J. Goldstein, *Five Dragons Stirring Up the Sea*, China Maritime Institute Number 5 (Center for Naval Warfare Studies, U.S. Naval War College, April 2010) .

報告書『五つの龍』が取り上げる中国の海上法執行機関は次章に示す通りである。

2. 5つの海上法執行機関

報告書『五つの龍』は、中国には海上法執行機関が5つあるとして、それぞれについて、以下のよう

(1) 辺防総隊・海警

海警は、公安部（報告書『五つの龍』は Ministry of Public Security と表記）の人民武装警察（報告書『五つの龍』は the People's Armed Police と表記）に付属する辺防総隊（報告書『五つの龍』は the Border Control Department と表記）に置かれている。この組織構造は、旧ソ連をモデルとして作られたように思われる。

海警は、高速艇と小型巡視船を保有しており、多くは機銃等の小火器を装備している。海警の主任務は犯罪取締りであるが、9.11以降は海上テロに対する備えにも重点をおいている。北京オリンピック期間中は毎日30回のパトロールを実施し1,000隻以上の船舶を調査したとされる。これまで、中国では海上テロの被害はないが、近年警戒を強めており、2008年11月のインド・ムンバイでのテロに関わる教訓等を調査しているという。

海警が置かれている辺防総隊は、しばしば中国の沿岸警備隊と称されており、アメリカ沿岸警備隊との中国におけるカウンターパートになっている。隊員は1万人で、これは中国の全海上法執行機関の人員の4分の1に当たる。辺防総隊は寧波に辺防海警学校（the Border Guards Maritime Police Academy）を開設している。

(2) 海事局

海事局（報告書『五つの龍』は The Maritime Safety Administration と表記）は交通運輸部に属し、辺防総隊の2倍の2万人の人員を擁している。これは5つの法執行機関の総員のほぼ半数に当たる。海事局の主任務は、中国の港湾に入る船舶の検査と登録、海上事故調査、船員教育と免許付与、海上交通管制、航行援助装置の保守整備、国内・国際法の履行、そして捜索・救難である。海事局は14の地方支部を持っており、保有する船艇は非武装である。280人におよぶ犠牲者を出した1999年の黄海でのフェリー海難事故を契機として、救難活動のためのヘリ搭載船の導入を進めている。海事局には養成機関がなく、要員は大連や上海あるいはアモイの海洋大学で養成されている。

(3) 漁政局

漁政局（報告書『五つの龍』は Fisheries Law Enforcement Command と表記）は農業部に属しており、人員は1,000人である。10年前、過去の乱獲と環境破壊によって中国の漁業は悲惨な状態に陥っていた。南シナ海では魚種と漁獲量が激減していた。漁業監視が強化され、また1999年には漁船隊の“ゼロ増大”計画が始まり、2004年までに8,000隻の漁船がスクラップにされた。2010年までに漁船数を19万2,000隻とする計画である。

沿海漁業を制限する一方で、北京政府は、遠洋漁業の促進に力を入れている。遠洋漁船隊は2006年時点で2,000隻に膨れ上がり、これらが35の国の排他的経済水域（EEZ）で操業をしている。寧波の辺防海警学校では、「仮に中国で食糧問題を解決すべき事態となった場合、先ず外洋の資源取得を目指すことになる」と述べている。中国の漁船をアフリカやラテンアメリカ沖で見掛けることは日常のこととなっている。

中国にとって、自国の漁業利益をいかに守るは大きな課題である。2009年夏に、中国の海洋法執行組織が南シナ海での違法外国漁船に対するパトロールを開始し、周辺国との間で緊張が高まってい

る。北京政府の漁業政策はより攻撃的性格を強めていくだろう。

(4) 税関総局

中国では、通商の拡大と共に税関総局(報告書『五つの龍』では **General Administration of Customs** と表記)の仕事も増大している。税関総局の任務には、税の徴収、関税監理、貿易統計資料作成、密輸阻止、および港湾取締がある。最後の2つが海上法執行機能である。中でも密輸取締りが重視されており、2007年には検挙数が1,190件となっている。税関総局は212隻の高速艇を保有するとされているが、その実態はよく分かっていない。

(5) 国家海洋局

国家海洋局(英語表記は **The State Oceanographic Administration**)は国土資源部に属し、6,000~8,000人の人員を有すると見られる。その任務には、環境保護、科学調査、排他的経済水域における権利と利益のための法執行が含まれる。国家海洋局には海監総隊(報告書『五つの龍』は **China Maritime Surveillance** と表記)があり、法執行に当たっている。

近年、中国では沿岸海域の環境保護に関心が払われるようになっており、国家海洋局は大きな役割を担っている。国家海洋局は2006年に、「中国は深刻な海洋汚染に直面している」との調査結果をまとめている。それを受けて、沿岸域総合環境モニタリングシステム、沿岸域汚染防止策の強化構想、149の海洋環境保護区の設定、等々の具体的な取り組みが始まっている。2006年の発表によれば、国家海洋局は1,000トンから4,000トン級までの21隻の船艇を保有している。中国国内では、これら装備では、領海と接続水域でのパトロールがやっとであり、EEZや大陸棚にまでは及ばないと言われている。それでも、中国による海洋監視は、東シナ海で4隻の船舶と4機の航空機で毎日実施され、また、南シナ海でも南部海域で定期的に行われている。国家海洋局の船艇は、アメリカの軍事監視船艇に対抗できるセンサーと電子戦技術をもっているとされる。国家海洋局は、海洋監視衛星を打ち上げている。

3. 沿岸警備と海軍の関係

中国において、人民解放軍海軍と各沿岸警備部門の間における役割・任務・機能はどのように区分されていくのであろうか。一般的に言って、海軍と沿岸警備隊の間で任務のある程度のオーバーラップは必要である。国境を越える犯罪やグローバルテロが安全保障上の重大な脅威と認識される時代において、海軍と沿岸警備隊の共同場面は増えている。また、海軍が地域の枠組みを越えて地球規模で海賊等の取締に当たるケースも生じている。それが一方で、責任の所在を不明確にするという問題を生じさせている。中国では、沿岸警備機能をどのように発展させていくのであろうか。

報告書『五つの龍』は、「アメリカを始めとして、諸国の沿岸警備隊は多かれ少なかれ国家の安全保障に組み込まれており、日本の海上保安庁も海軍任務を補完し得る」、「アメリカの沿岸警備隊は第五の軍隊であり、これまでも戦闘任務を与えられたことがある」、「沿岸警備隊類似の部隊を軍事戦闘場面に投入すべきであり、有事においては沿岸警備機能を持つ組織を海軍の指揮下に入れるべきである」といった、意見や分析が中国にあることを紹介している。しかし他方で、報告書『五つの龍』は、海警学校が「武力の行使は地域全体と国際システムに深刻な影響を与え、それは国家の発展を損ねると指導している」ことを紹介し、「中国の沿岸警備機関が海軍の付属物として発展すると観るのは早計である」とも指摘している。

報告書『五つの龍』は、冒頭において、「これまで、中国における沿岸防御に関する考え方と非伝統的な安全保障との関係について詳しく調査されたことはなかった」と述べている。これはつまり、

人民解放軍海軍の起源的任務と海上法執行機能との概念整理の必要性を指摘するものであろう。人民解放軍海軍の起源的任務は、中国共産党による国家体制を海上において護ることであり、旧ソ連をモデルとしたとされる人民武装警察・辺防総隊と沿岸防護機能を分け合う形がとられた、と考えることができるだろう。報告書『五つの龍』は、「冷戦時代、人民解放軍海軍の任務は沿岸警備以上のものではなかったが、戦闘能力の増強に伴い、しだいに沿岸警備機能の分化の必要性が唱えられ始めている」、「それにも拘わらず、人民解放軍海軍では海賊や搜索救難といった沿岸警備隊に属するような任務に関心を深めており、はっきりと分けてしまうことは現実的ではないとの意見も出されている」と述べている。

複数ある海上法執行機関を沿岸警備隊として整理統合するのか、また、人民解放軍海軍と法執行機関とが任務において分化を進めるのか、あるいは曖昧さを残していくのか、中国国内における議論はこれからであろう。

4. 中国の沿岸警備機能が未発達である理由

報告書『五つの龍』は、中国における沿岸警備能力が未発達で弱いことの原因について、リチャード・サトマイヤー著述の『中国における安全とリスクマネジメント』(Richard Suttmeier, “China, Safety, and the Management of Risks”)を引用しつつ、それは現代化のプロセスに起因していると分析している。サトマイヤーは、「通常の観念として、近代化と安全性との間には強い関係がある」と指摘し、「中国には、現代化することによって富や力が生まれるとの考え方があり、それは、安全の強化といったものを含むあらゆる分野に該当する」と述べる。その上でサトマイヤーは、「中国の沿岸警備能力は、中国が近代国家になるまでは向上しない」と断言する。その理由は、単純に言ってしまえば、現代化すべき分野と認識されない限り、資金が振り向けられないからである。サトマイヤーは、「中国では、冷戦の時代や“恥辱の世紀”を通して、他の分野の現代化が優先されてきた。中国が既存の脅威に対する安全保障を確保でき、また貧困から脱却できた後は、北京政府は、海洋ガバナンスや人間個人の価値といったセカンドプライオリティーに目を向けることができるだろう。しかし、“第5の現代化”とも言うべき『政治の自由化』なくして、中国が“第六の現代化”に進むことができるだろうか？」²と疑問を呈する。

サトマイヤーの論を引いて、報告書『五つの龍』は、「富と教育が中国に“第6の現代化”を生じさせるなら、それによって安全の確保や環境管理といった面の政策が可能となるかもしれない」と述べ、沿岸警備能力の強化は、中国における現代化のプロセスに係っていると分析する。他方で、報告書『五つの龍』は、「市場原理に従えば、中国の海洋秩序は、海洋経済の発展と共に付随的に整備されていくとの考えも成り立つ」とも述べている。

報告書『五つの龍』は、総括する形で、「沿岸警備隊は、その任務が国際の利益に反することが少ないことから、海軍よりも国家間の協調を容易にする面がある。そのことから、中国でも沿岸警備隊の必要性を認識するかもしれない。しかし今、沿岸警備における中国の関心は主権の防衛である。中国が、主権の防衛に固執することなく、真の“ソフトパワー”として沿岸警備能力を向上させることによって、海洋における責任あるステークホルダーになることができる」と締め括っている。

(文責：秋元一峰)

² サトマイヤーは、第5、第6の現代化が何を示すのかを明確に述べていないが、工業・農業・軍事・科学技術の4つの現代化に続くべきものとして、政治の現代化と、それによって可能となる国民の安全や個人の価値の現代化を指摘しているものと考えられる。

海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)